

特 殊 報

岡病防第 20 号

平成 24 年 8 月 2 日

各関係機関長 殿

岡山県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について

病害虫発生予察特殊報第 2 号を下記のとおり発表したので送付します。

平成 24 年度病害虫発生予察特殊報第 2 号

平成 24 年 8 月 2 日

岡 山 県

- 1 病害虫名：キク茎えそ病
- 2 病原ウイルス名：キク茎えそウイルス
Chrysanthemum stem necrosis virus (CSNV)
- 3 作物名：キク（品種不明）
- 4 発生面積：10 a
- 5 特殊報の内容：岡山県での初発生を確認
- 6 初発生確認月日：平成 24 年 7 月 17 日
- 7 初発生場所：岡山県北部
- 8 発生の経緯：平成 24 年 7 月、岡山県北部の雨除けハウス内においてキクの葉にえそ、退緑、奇形、茎にえそなどの、トマト黄化えそウイルス〔*Tomato spotted wilt virus (TSWV)*〕によるキクえそ病に類似した病徴を呈する株が確認された。岡山県農林水産総合センター農業研究所において CSNV に特異的なプライマーを用いた RT-PCR 法によるウイルス検定を行ったところ、CSNV が検出され、キク茎えそ病であることが確認された。
キク茎えそ病は、国内では平成 18 年に広島県で初めて確認され、平成 24 年 7 月現在、21 県から特殊報が発表されている。近畿、中国、四国地方では兵庫県、島根県、広島県、山口県、香川県、徳島県で発生が報告されている。
- 9 病徴：葉に退緑・えそ症状、葉の奇形、茎に明瞭なえそ症状を生じる（図 1）。発病程度は品種によって異なるとされる。TSWV によるキクえそ病の病徴と酷似しており、病徴からの診断は難しい。
- 10 伝染：CSNV はミカンキイロアザミウマ（図 2）によって媒介され、保毒虫が吸汁することにより伝染する。ミカンキイロアザミウマは、1 齢幼虫が罹病植物を吸汁することで本ウイルスを獲得し、永続的に伝搬するが経卵伝染はしない。また、罹病株からの挿し穂等の栄養繁殖によっても伝染するが、種子伝染及び土壌伝染はしない。本ウイルスの感染は、キク以外ではトマト、ピーマン、アスター、トルコギキョウで確認されている。

11 防除対策及び参考事項：県内で発生が確認されているキクえそ病に準じて防除対策を実施する。防除のポイントは、健全苗の使用、ミカンキイロアザミウマの防除、罹病株の除去および圃場周辺の除草である。

(1) 発生圃場では感染株を抜き取って埋めるなど、二次伝染防止に努める。病気の発生した品種を親株として使用せず、ウイルスに感染していない親株への更新を行う。

(2) 媒介虫であるミカンキイロアザミウマの防除を徹底する。密度が高い状態では防除効果が劣るので、特に親株、育苗床など低密度時の防除を徹底する。

(3) ミカンキイロアザミウマの防除は、薬剤防除以外にも圃場及び周辺の除草、ハウス栽培では開口部に防虫ネットを被覆するなど耕種的、物理的防除法を組み合わせる行う。



図1 キク茎えそ病の病徴（矢印）

（左：葉にえそ症状が生じた株、中央：葉の奇形症状、右：茎のえそ症状）



図2 ミカンキイロアザミウマ成虫（体長約1.4～1.7mm）

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239